松風

上詞

是ハ諸国一見の僧にて候

我此程ハ都に候ひて洛陽の寺社

殘りなくおかミ廻りて候又是

より南都に參らばやと思ひ候

上哥 、ーーニーニーーニニニーーーニニニニー三ニ

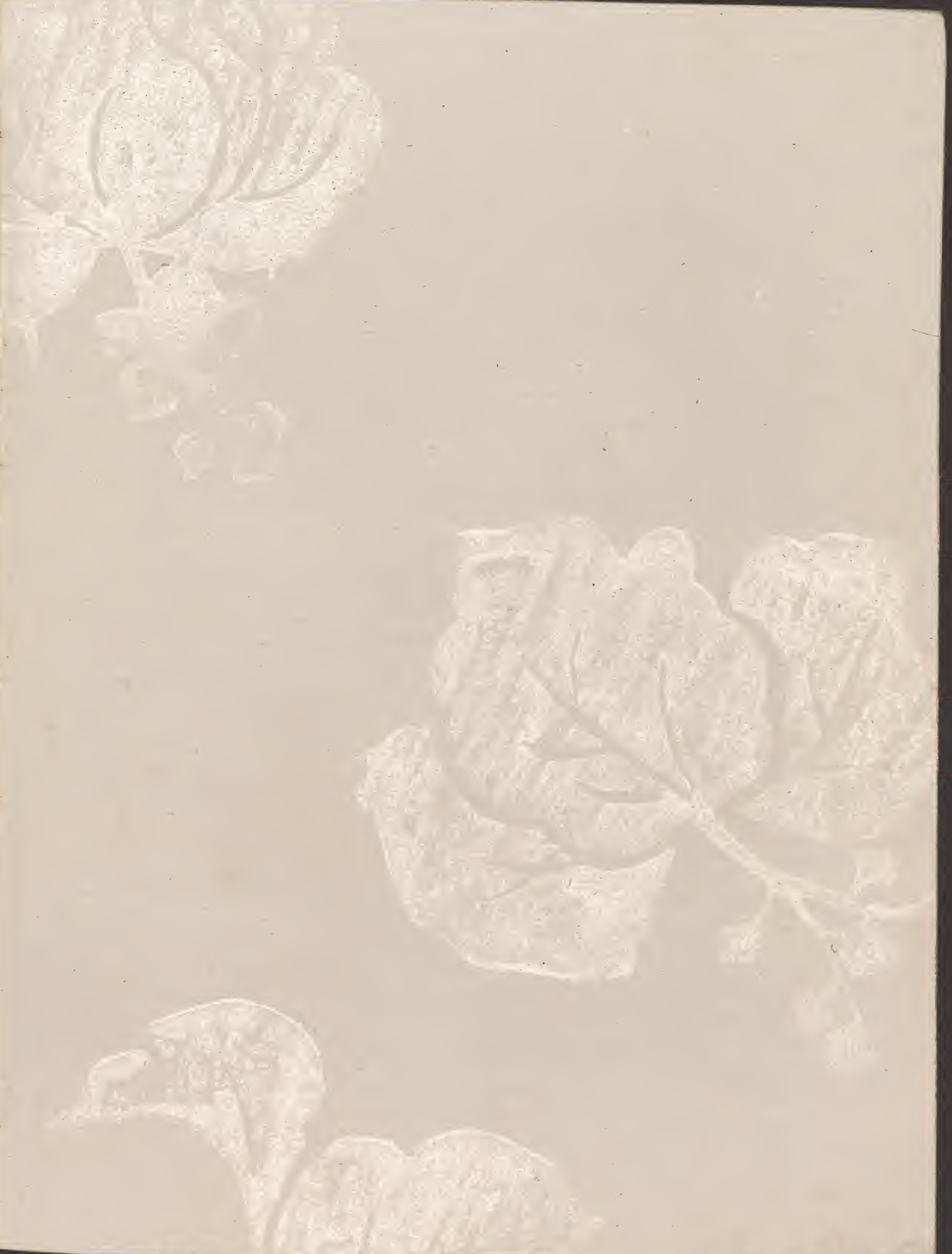
あけ方雲の綿巻乃社保孫ミじく

、ーニニーニニーニーニーニニ丶ニ丁ニ

なが行末ハ源なや木幡の関を

ニニ三丁ー丌ーーーーーーーー丁

ゝ越て伏見の浮田尽くわゝる



ニ　ー　ニ　ニ三下ー乙、　ー　、ニ　ー　ニ　ー　、

ゐ乃水上あきらかなる乃里にも

ニ、ー　ニ　ー　上ヵル ニ　ー　ニ　ー　ニ　ー

美なるわく　実や尊國なれ

ニ、ニ三ー　ー　、ー　ー　、ー　詞

やまよし宇治の里山乃姿川の

上ヵル ー　ニ、ー　ー　ニ三下ー　ニ、三ニニ　ー

流産のさと橋乃氣さへ広多き

ニ、ニ詞

名所かな萬里人の末までなれし

三下詞 |

なかく　此傍ハ何ことを作なり

早詞 |

是ハ此所始まり一見乃者なれば

名所遺跡のこゝまなく仮義なく

三下 |

扨中は住人ともなき宇治乃

里人なれ共名所旧跡比ませ

ニ　三下、ー　ニ　ニ　上ヵル ー

白波のうきお川小舟と橋とは

ニ　ー　ー　ー　ー　ー　ニ　ー　ニ

弐彫のしらず渡るかは世中に

上ヵル ニ　下ニ　ニ　ー　ニ　ニ　ー　三三

住りわ彼名所旧跡とりも花中

ー　ー

へつき

羊詞 |

川や左橋とは道なれど

勸学院乃はゝく [illegible]もうきう哉
さくほうはしり色里どしんの流人
まろまし下男丈はこの[illegible]かなろう
ちうもへず喜撰法師がはく
のはの[illegible]ほとりにて
[illegible]
ニ上ル
さ[illegible]なきうり大事がすを
はんのよあまきぎ喜撰法師が庵の

下カヽル
我庵ハ都乃たつミ　しかぞ住
詞
世を宇治山と人ハ云なれば人是
上カル
以ふ[illegible]わ[illegible]ちう主うはもやしへ
尉ハ気はる
ウキ詞
又あまた一村の
里ありみえてハ是末の浦なり
上ウキ詞
さて其末乃浦中みうちの
河島中や
ウキ上カル
是ハ乃へし[illegible]は小

湖の崎ハ　シテ詞　なかよ橋の小島の崎

ワキ　向ひに見えたる寺ハ゛川り横恵

心乃僧都の法を説志る人那

シテ上カル　なふ〱たひ人あまは浅遠よ

上音　なまもゆほ月きういはまぬね

山くゞ山明乃澈よ影みえて行

さし下ほ湖小船山も川も響ゝ

とりて見那を分ぬ気色かゞ実や

ぬよしおふ都よ近き宇治の里

上詞　やしにまさるぬ所なく

ゆるやかんこゑにも平等院とや

渡るのは流説さうまそそ一の

ワキ詞　そうさうれん源なしへ入

シテ　こゝ抓ゝ平等院まて流のへ入

ずこ秋ゝ感ハ新殿とやて面白き
所よりハ能く清読らん　羊詞 ｜楊炎
要亦院よてんひりほうやまのこ
是り風邕をみまほば扇の如くよ
と玉殘て孫了ハ是河とやうる
謂よろり　三句 ｜古典ハ此志はよ
清しく鬼りしうま孫ん語清きやき

やハ画しば著　物語 此所よ書まあるを
しま源三位頼政名歌よ討まけ
扇をし奏目君しより折ひぬ
ごとはぬぬ乃古跡なまはとて
〳〵小扇の芝とやハ　羊上古見 ｜いはし
やさしも文武よなかえしひと
なれたあともちろ露乃花の人しさ

なれて行人をのせて渡す佛の
ことしぞつはしやん　シテ詞　実能
湖畢乃物がたり宇乃月も同も
老ふる堂てるがかゞ様にやさしき
なからよりゆたあかす旅人乃
ざの枕乃露の世にま茶見ん光
来てはつるが契と聞おりひ分ひろ

上カヽル
とよ夢の浮世乃中宿のごく
ずら乃橋音をへそやお渡も
打渡しをちらさ人に物やぶれ影
没り遥具と見系もあへし歩に
なかく　下ノ詞　梅ハ松殿乃色霊作
は歌を系に言葉をかはしなほ
上カヽル
きやゞつきゝやはしぬとよりむ時

上ゲ

おりひよらん乃波枕〳〵ゞも
あらし吹夜の扇が芝を行まて
袋の数をまこうよく血を
そろねの河と成てゞ波枡を
流――ゞ白丑骨をたゝくゞよの代字
治川の綱代乃浪ゞ並淵浮遊しや
伊勢武者ハゞ三郎ひかとし流鏡
きくゞ宇治乃綱代よ勉里きゝ成かに
ゞたりさのゞ薪りかいゞ世中よ
蝸牛乃角が争ひも川瀬の里
乃修心の邪慈ゞはとの流すや
猶こ仇鐘鏡打く小きみ郎
法衣の身よろ甲冑を帯志ゞ隆
ちめと落る哀ゞり横仰清凱線

三位乃ゞ遺業めてましきのはり
実やくまなみ思へ蘭ちよ植ゑても
隠なしげぬ栄ぬ先が頼政と法境
ひるさつ雨し宮遣ぼて法悦
談紛く法心安く思ひをさ五十
歳鶴乃くわ九うよ来仏きのはに
植ひなしぼましてや見ハ直及ふ

以ふひなさは法の力他よ通
たわ伝のぬも宮ほ阮乃庭の
おも思ひ出ちわ佛王世よ
佛乃ときし法の場ゞく義ろ平
か大恵の功力よ頼政り仏果を
更んろせ新き問ア免問をの
法く世つへ義ご於い源三位頼政

我心乃波よ浮沈ず因果の有様
那ひなわ　柳沿ほ子ら夜乃比由
かふぬ付候数を急ずも今倉の
萬乃うらば井のよりふちめ乃
内の邦を思ひ出て憂時しもふ
近江路や三井寺さして旅ふ
古郷よ平家ハ時をめくるさ乃

数糸路の名をききのひしふ
伊りちん此ぎくや音羽乃やさ
はくなじ山科の里ちうの木幡の
夏をよりふ乃そごくる浮世乃
橋心ま治乃川橋打渡里大和路
さしてる一よ　ると宇治との
るよそ関路の鶴乃ひまもなく

ゞみや六度まて御落馬ありて
御はけをたまひしかば是ハさき夜乃
御寝ならさる故なりとて
平等院にしはし御座をかまへ
宇治橋の中乃間引はなし
下ハ河波上よたてもどもに
白旗をなびかしける處を
ゝゝゝ待居たり
上ゲ詞
角て源平両家の兵宇治
川の南北乃岸よ打望ミときの
聲矢さけひの音波よたくへて
おひたゝし橋乃行けたを
隔て戦ふ味方よは筒井の浄妙
一来法師敵味方の目を驚かし
詞
角て平家の大勢橋ハひいたり

水まさりけり難所の大河
なればざうなう渡すべき様も
なかりし所に田原の又太郎
忠綱と名乗て宇治川乃先陣我
なりと名乗もあへず三百余騎
くつばみを揃へ川水に少しも
ためらはず群居る群鳥の翅を

並ぶる羽音もかくやと白浪に
ざつざつと打入て浮ぬ沈ぬ
渡しけり忠綱兵を下知
していはく水の逆まく所
をば岩ありとしるべしよはき
馬をば下手に立てつよきに
水を防がせよ流れん武者には

遊ふ人をとこぜなひよ女哉
あいし唐土ば一人乃下知よ
よはてぎえわる大河なれば
一騎もなき過ぎ、卿ごの存ふ
だめいてあり神な味方乃勢八
ぎ卿のしく路もためひばい町りわ
おかえひささてぎつさまを

下
うるへて爰を完はと戦ひたわ
だ禄よのことおやまもく心
たゝり唐大　新政り水ミ流乳
元オ乃老も討まゝ死は　今老
門さり戦ひへ爰心　只一筋よ
尭武老は　是ゝと思ひてく
平氏院の遊乃おもひぞ是なる芝の

上ま扇をうちしき鏡ぬきすて
坐をくらひて刀を抜なりし流石
に我えしそれ力ともそ理木乃
ぞ咲すもなりましに見外所る
てそハ哀はそわ　語ともへ外へ
い倍よ作那那のしこ那とても
地足乃ともの孫まなば扇乃益の

名の陰よ海ることも勢よそわ
立このへはとそ失よくわ